

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 28 年 6 月 11 日
＜第 2 号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第 3 回講座 「授業づくりの基礎①～学習指導案の作成から授業実践へ～」

平成 28 年 5 月 8 日（日）に、教材提示の方法や発問の仕方等、授業づくりの基礎について理解を深めることをねらいとして、第 3 回講座を行いました。今回は、教職に就くことを志す大学生に講座を公開し、関係大学の学生を中心に約 260 人が参加しました。

初めに、東京教師養成塾を担当する菅野 恭子指導主事が参加した大学生を対象に「授業づくりの基礎①～学習指導案の作成から授業実践へ～」をテーマに講義を行いました。この講義では、学習指導案を作成する上で意識することや授業を構成する際に工夫をすることについて等の話がありました。

続いて、分科会形式で東京教師養成塾担当教授による模擬授業が行われました。

【東京教師養成塾担当教授による模擬授業の様子】

国語の分科会では、小学校第 4 学年「漢字の組み立て」の模擬授業が行われました。授業の前に東京教師養成塾担当教授からは、学習指導案を作成する上で単元の指導計画を作るときのポイントとして「単元の評価規準」と「単元の指導計画と評価計画」の説明がありました。模擬授業では、導入、展開、まとめの各部分で教材提示の目的や児童が興味・関心をもって学習できるようにする活動の工夫について説明があり、熱心にメモを取る塾生や学生が多く見られました。最後に塾生や学生からは、板書の工夫や児童の反応に対する教員の対応について質問がありました。



—国語の模擬授業の様子—



—算数の模擬授業の様子—

算数の分科会では、小学校第 5 学年「きまりを見つけて」の模擬授業が行われました。棒で正方形を作ったときの正方形の数と棒の数の関係を通じて、数量関係や規則性を学習する授業内容でした。模擬授業の前に、算数の 1 単位時間の授業構成や算数的活動に関する説明がありました。授業の導入の部分では、児童自身に問いが生じるようにするための発問の工夫や児童の意欲を膨らませるために教師として心掛けることについて話がありました。参加した学生からは教師の発問を工夫することの大切さと難しさを再認識したとの感想が寄せられました。

特別支援教育の分科会前半では、「障害のある子供の算数指導～『3』の指導を考える～」をテーマに講義が行われました。障害のある子供に対し、数の指導を行う前に指導が必要である「数の基礎概念」の系統的な指導法を、『3』の指導の演習を交えて東京教師養成塾担当教授が解説しました。

特別支援教育の分科会後半では、知的障害特別支援学校小学部第 1 学年国語・算数の模擬授業が行われました。模擬授業の前に、指導の根拠となる特別支援学校学習指導要領について説明がありました。模擬授業では、集団学習のねらいや学習指導要領上の位置付け、個別学習で取り組む課題について考える機会が設けられ、参加した塾生や学生は特別支援学校の教育活動への理解を深めました。また、特別支援学校の授業で使われている教材や教室環境について説明があり、特別支援学校の教師を志す学生からは、教師という立場で児童・生徒が楽しいと感じることができる環境を用意したいとの感想が寄せられました。



—特別支援教育の
模擬授業の様子—

分科会終了後、塾生は「学習指導案を基にした授業実践について」をテーマに班別協議を行い、理解を深めました。

平成 28 年 10 月 16 日（日）には、塾生による模擬授業を中心にした第 2 回公開講座を実施します。

【参加した学生の感想より】

- ・教師は子供の将来を変える、とても責任のある職業だということを感じた。教育者として、子供一人一人と向き合い、少しでもいい影響を与えるために教師自身が多くのことを学び、豊かな人間性をもって接することが大切だということ学んだ。
- ・講義や模擬授業を通して、自分が教師になりたいという思いをより一層強くすることができた。

【塾生の感想より】

- ・意図をもって授業を行うことの大切さを再認識した。また、教師と子供 1 対 1 のやり取りではなく、考えを深めたり、子供同士で意見交換したりする活動の重要性を学んだ。
- ・授業を行うときは、児童・生徒にどんな力をつけさせたいのかという「ねらい」を明確にすることが大切であることを学んだ。また、児童・生徒の実態に即して教材を工夫することで、児童・生徒の学びはより深まることが分かった。
- ・児童・生徒自身が「面白い」と感じる教材づくりの大切さを改めて学んだ。

● 第4回講座

「教育相談の機能を生かした児童・生徒理解と保護者対応

～いじめを事例とした対応に学ぶ～

平成28年5月28日(土)に、児童・生徒理解と保護者対応の具体的な方法を理解し、特別教育実習における学級での指導に生かすことをねらいとして、第4回講座を行いました。

まず、東京教師養成塾を担当する高瀬 智子統括指導主事が講義を行いました。この講義では、いじめ問題に対応するために必要なことや教育相談的な対応の進め方、面接をする際の留意点について、説明がありました。また、いじめは、どの学校にも、どの学級にも、どの児童・生徒にも起こりうるものであると考えて、対応していくことが必要であるとの話があり、うなずきながら話を聞く塾生の姿が多く見られました。

続いて実施した班別演習では、事例をもとに問題点や対応策を考え、その内容に基づいたロールプレイングを行いました。塾生は、児童・生徒役、教師役、観察者に分かれ、それぞれの役割を演じた後で、その時に感じたことや気付いたことなどについて意見交換をしました。保護者への対応では、東京教師養成塾担当教授が保護者役になり、ロールプレイを行いました。塾生は、保護者の思いや願いを受け止めて対応することの大切さや難しさを実感していました。

後半では、「児童・生徒とのよりよい関係づくりに向けた教育相談的な対応の在り方」、「保護者との信頼関係を築くために日々意識すること」をテーマに班別協議を行いました。塾生からは、学級通信等を通じてきめこまやかな情報発信を心掛けることが保護者との信頼関係を築くために重要であるとの意見が出されました。

【塾生の感想より】

・事例研究でそれぞれの役を演じてみることで、児童・生徒や保護者の気持ちの変化が分かった。教育相談に臨む姿勢が重要であることを理解した。



—班別演習の様子—

【連載シリーズ コラム②】

◆ 教科の特性と学習指導案の作成 ◆

東京教師養成塾教授 國分 重隆

私たち教師養成塾教授が塾生への指導でこの時期大切にしていることの中に、教科等の特性の理解と学習指導案の作成があります。

1 学習指導の充実のために～教科等の特性を理解することの意義～

(1) 育てるべき能力や態度とつなげて教科等の特性をつかむ～教科等の目標の中にある特性～

教科等には、それぞれにその教科等で育てたい能力や態度があります。この能力や態度はまさに教科等の特性を表しています。例えば国語科の指導では、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し・・・国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てること」をねらいとします。このねらいそのものが教科等の特性になります。

(2) 授業づくりは、学習指導要領の読み込みから始める～教科等の内容の中にある特性～

上記(1)の「 」の中の記述は、小学校学習指導要領解説国語篇(平成20年8月)の教科の目標に関する内容です。加えて教科等には、学ぶべき内容があり、ここにも教科等の特性が表れています。国語を例にすれば、学習指導要領では、学年ごとに「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の三領域と[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の内容を示しています。教師が授業をつくる時には、それぞれの教科等の学習指導要領の目標や内容をしっかりと読み込み、児童・生徒の発達段階も意識しながらその特性を理解しておくことが大切になります。

2 児童・生徒の生き生きとした活動の充実と授業のねらいの達成のために～学習指導案の作成の意義～

教科等の特性を理解した上で、次は学習指導案を作成して授業そのものの充実を目指します。

(1) 教師自らが単元という一塊の学習内容を多面的、構造的に理解する手だてとして

単元の授業においては、児童・生徒が興味・関心をもち、明確な課題意識と追究意欲をもって主体的に学び、教科等で求められる能力や態度を身に付けることが大切になります。そのために教師は、事前に全体や一時間ごとの目標と評価の観点、教材観、指導観などを明確にし、単元の授業を多面的、構造的に組み立てていきます。

(2) 教師が授業のゴールのイメージを明確にもち、見通しをもって指導するために

単元の授業は、教科等の特性により数時間から数十時間で構成されます。授業は一時間一時間の積み上げですので、学ぶ内容の順番やどんな活動に何時間かけるかということを意識して指導計画を作ります。この時大切なことは、単元の目標が達成された児童・生徒の姿をゴールのイメージとすることです。そして、学習の効果を上げるために児童・生徒の実態も考慮し、学習活動や形態の工夫、教材や資料の作成や提示の工夫、体験や本物から学ぶ活動などを、指導計画のどの段階でどのように位置付けていくか、授業の見通しがもてる計画を立てるということも大切になります。

塾生たちは、実践する教科等の学習指導要領を読み込み、育成すべき能力や態度とつなげて教科等の特性を学び、学習指導案を作成し、それぞれの教師養成指定校の子供たちが生き生きと活躍する授業を作るために真剣に取り組んでいます。